

## 「大人目線」と「子ども目線」

先週はまず、「大人目線」と「幼児目線」で見えるもの・感じるものがどう違うのかを体験し、それを出し合ってみました。しかし、名芸大では見ている対象が限られてしまいますので、草地の丘が敷地にある別の大学で体験した学生のもので紹介します。

「大人目線」で見えたもの・感じたこと	「幼児目線」で見えたもの・感じたこと
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 空、青空、雲、飛行機雲など</li> <li>・ 鳥、スズメ</li>   <li>・ 林、木、大きな木、木の枝</li> <li>・ 草、色とりどりの葉、緑</li>   <li>・ 花、タンポポ</li>   <li>・ 池</li>   <li>・ 大学、建物の上部、食堂、山、工場、タワー、ガスボンベ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 鳥</li> <li>・ 地面の放物線、草原、原っぱ、地面</li> <li>・ 林、木、木の幹</li> <li>・ 草、芝、葉、ちくちくする葉っぱ、落ち葉、枯れ葉、茎、つぼみ</li> <li>・ タンポポ、小さい青い花、薄紫の花、長い花、ねこじゃらしみたいな植物</li> <li>・ どんぐり</li> <li>・ 虫、あり、蝶、飛ぶ虫、歩いている虫、めっちゃいる虫</li> <li>・ 水</li> <li>・ 靴、影</li> </ul>

●カテゴリーに分けて、同じカテゴリー同士が横並びになるように並べてみると、共通するものもありますが、目に止まる物や発見している数が違うことに気づくと思います。同じ風景を見ていても、「大人目線」と「幼児目線」はこのように違うのです。

●「大人目線」では上空のもの、遠方のものまで見えているのに対し、「幼児目線」では足元のもの、小さなものがよく見えるようです。

## 「ネイチャーゲーム」で感じ取ったもの

先週は、「ネイチャーゲーム」を通して、自然あそび体験もしてみました。その体験を通して発見したことを出し合ってみました。

① 「体でピン！」・・・目を閉じると全身で何を感じましたか？

・ 鳥の声、虫の声、人の声、笑い声、蚊の飛ぶ音、車の音、飛行機の音、風の音、機械の音、金属の擦れる音、ピアノの音、楽器の音、シートの音、室温機の音がうるさい、袋の音、携帯電話のバイブの音、カメラのシャッター音、草を踏む音、葉っぱがカサ

カサする音、静か

- ・食べ物匂い、草の匂い、芝生の匂い
- ・寒い、お尻が冷たい、芝生が冷たい、風が冷たい、風が涼しい、冬、気持ちいい温度、適温
- ・暗い
- ・風の強さ、そよ風、髪がなびく、髪の毛が揺れる、髪の毛が顔に当たる、風が気持ち良い、空気、
- ・草、草のチクチク、草がふわふわ、芝生感
- ・鼻づまり、お腹が空いたな、眠くなる、疲れた
- ・帰りたい、気分の心をめっちゃ考えた、実家の竹林を思い出した

●同じ場所、同じ時間を過ごしていても、音、匂い、温度、明るさ、動き、感触、体調、心と、どこに神経を働かせているかは、人によって違います。幼児が保育者に話しかけて来る内容も、同様に多岐にわたるのです。

## ② 「ハンター」・・・目を閉じるとどんな音が聞こえましたか？

- 01 アー、カーカー、カーカーカー、カァ、カァカァ、カァーカァー、カサ、カサカサ、
- 02 カチカチ、カラカラ、カリカリ、カン、ガガッ、ガサッ、ガシャガシャ、ガタン、
- 03 ガチャン、ガヤガヤ、カラン、キーキー、キーン、キュイーン、クワー、コツコツ、
- 04 ゴー、ゴォー、ゴオオオオ、ゴオオオゴー、ゴーゴー、ゴオゴオ、ゴゴゴ、ゴゴゴー、
- 05 サー、サクサク、サラサラサラ、サワサワ、サワサワー、ザー、ザザザ、
- 06 ザッザッザッ、シャカシャカ、シュー、シュッシュ、シュッシュッ、ジャァー、
- 07 ジャリジャリ、スチャチャチャ、タッタッタ、ダンドン、チッチチ、チューンピョ、
- 08 チュッチュッ、チュピ、チュピチュピ、チュルルル、チュンチュン、
- 09 チュンチュンチュン、チョンチロロ、トトトト、トントン、「バイバイ」、バンバン、
- 10 パンパン、パンパンパン、ヒュー、ビュー、ピー、ピーピー、ピーピーピーピー、
- 11 ピィピィ、ピィピィー、ピーピョ、ピーピロロ、ピチピチ、ピッピ、ピピ、
- 12 ピピッピピ、ピピピ、ピピピピ、ピピョ、ピヨピヨ、ピヨピヨピーヨ、ブーン、
- 13 ブオー、ブロロロー、ペラペラ、ペラペラッ、ボー、ボーッ、ボリボリ、「ラーララ」、
- 14 リンリンリンリン、リンリンッリンリンッ、シー

●同じ時間、同じ空間にいて耳に届いた音。そしてその音をことばにしたときの表現。それは1人ひとりが違い、みんなで寄せ集めると、こんなに豊かな音表現になるのです。幼児も同じように多様な言葉表現で音を表すのです。

●続けて声に出して読んでみると、これ自体が楽しいことばあそび表現にもなります。

## ③ 「お空の写真屋さん」・・・同じ雲を見て何を連想しましたか？

名芸のみなさんが体験した時は、雲1つない天気でしたので出来ませんでした。以下は他大学の学生が春に体験したときに表現したものです。

- ・蝶、鳥、ヒヨコ、ニワトリ、フクロウ、鷹、アヒル、アヒルの子、カモメ
- ・魚、金魚、大きな魚、魚の親子
- ・クラゲ、タコ、ロブスター、カニ、カメ、サメ、ラッコ、アザラシ、アシカ、イルカ、

クジラ

- ・ウサギ、ヨークシャテリア、ポメラニアン、プードル、犬、犬の顔、アルパカ、ラクダが2匹、仔馬、カバ、馬、ゾウ、恐竜、怪獣、ゴジラの頭、火を噴いている動物
- ・ハート、ハートが2つ、リボン、帽子、おむつ、角
- ・人をダメにするクッション、大きな剣、ベッド、落とし穴、煙、しゃちほこ
- ・飛行機、船、大きな船、豪華客船、宇宙戦艦ヤマト、天空の城ラピュタ
- ・山、富士山、北海道、岐阜県、イギリス
- ・月、三日月、流れ星
- ・胃、胃腸、okってやっている手、口を開けて上を見ている何か、ミッキー、ミッキーの横顔、カール君、パックマン、鼻がでかい天狗が寝っ転がっている
- ・ナス、松茸、キノコ、たらこ、パン、クロワッサン、ハンバーガー、おにぎり、天むす、エビフライ、唐揚げ、餅巾着、綿飴、シュークリーム、ソフトクリーム、団子、ポイフル、おととつと
- ・「3」

●同じ雲を見ているときに、その雲の形や様子から何を連想するのか（心想表現）という  
と、動物、もの、人物、食べ物、土地、数字など、人によって違うのが面白いですね。

#### ④ 「落とし物名探偵」・・・草地にうつ伏せしたら何が見えましたか？

これもあの芝生で見つけられる種類は少なかったもので、これも草地の丘がある大学の学生さんたちが見つけたものを以下紹介します。

- ・藻、コケ、コケみたいなもの、コケみたいな草、フワフワクルクルした草の毛、草に生えている透明の毛、踏まれた草、チクチクの草、茶色の変な草、細い草、細長い草、長い草、フワフワの草、ピンと伸びた草、真っすぐ伸びている草、平べったい草、トゲトゲの草、ツンツンした草、雑草、芝、枯れた芝、茎、茎から生えた葉が上に上がるほどに段々密集している様子、丸い葉っぱ、ちっちゃい葉、薄茶色の葉、白っぽい葉っぱ、イネみたいな葉っぱ、尖った葉っぱ、ハートの形のちっちゃい草、タンポポの葉っぱ、葉っぱ、葉っぱがいっぱい、葉っぱについている毛、白い毛がついている葉っぱ、枯れた芝生、枯れ葉、木から落ちてきた枯れ葉、クローバー、3つ葉のクローバー、クローバーみたいな草
- ・オオイヌノフグリ、タンポポ、フニャンとしたタンポポ、折れたタンポポ、枯れたタンポポ、タンポポジャングル、タンポポに似た花、ドリアンみたいな花、小さな黄色い花、紫の小さい花、背の高い薄紫色の小さな花、青い花、小さな花、枯れた丸い花、粒粒が集まった植物、茶色い植物
- ・タンポポの蕾、タンポポの茎のふさふさした白い毛、もうすぐ綿毛になる蕾、花についた種、茶色い実、綿毛、綿毛のベッド、綿、ツクシみたいなやつ、枯れたツクシ、草の細い影、根、草の根っこ、木の根っこ、木の枝、どんぐり、割れたどんぐり、どんぐりの帽子
- ・虫、何かの虫、小さい虫、赤いちっちゃい虫、小さいバッタみたいな虫、アリ、死にかけているアリ、ケンカしているアリ、タンポポを登っているアリ、腕を歩くアリ、お米を運んでいるアリ、葉っぱを運ぶアリ、走っているアリ、いっぱいのアリ、アリ

- に食われているイモムシ、クモ、テントウムシ、ハエ、飛ぶ虫、虫がいっぱい
- ・ 友達の顔、友達、影、自分の影、靴底
  - ・ 地面、石、土、池
  - ・ 緑色の地面についているもの、パピコのかぶたのゴミ、もじゃもじゃ、フサフサ

⑤ 「見つけた！」・・・春を感じるものを見つけよう！



以下が、グループごとに見つけに

行った際のテーマです。

- ・ 一番汚い葉っぱ
- ・ 一番かわいい葉っぱ
- ・ 赤いもの
- ・ 冬のもの
- ・ ピンクのもの
- ・ 落葉で大きいもの

●あわただしい生活の中では、「自然」に向き合う時間がなかなかとれません。しかし、改めて「自然」に向き合ってみると、普段見かけないもの、聴こえていても自覚していない音があることに気がついたことでしょうか。しかし、ここで見つけたもの、聴き取った音こそ、幼児にはよく目に止まり、よく聴きとっている音なのです。さらに言えば、一斉保育の時間にみんなが集中していても、音や動く物に敏感に反応して一斉の活動から離れていく子にとっては尚更なのです。「落ちつかない子」「小さなことに気を取られる子」として否定的に見るのではなく、むしろ「研ぎ澄まされた感覚の子」として肯定的に見ることが大切です。

●それにしても、みんなで見つけ合ってみますと、実に多様なものが目に止まり、音をことばで表現するものですね。幼児も同じです。その表現に優劣をつけてはいけません。むしろ、見つけたもの、ことばで表現したことの1つ1つを大事に受け止めることが、幼児の環境へ働きかける意欲とことば表現を豊かにしていくのです。